

平成30年度「若年技能者人材育成支援等事業」推進計画

石川県地域技能振興コーナー

1 事業の趣旨・目的

日本のお家芸であるものづくりの基盤が若年者のものづくり離れや製造現場の海外移転等により、人材面を中心に急速に弱体化してきている。ものづくり産業が競争力を維持し、発展を遂げていくためには、産業の基盤となる技能者の育成が不可欠である。

このため、これまでの業務等を通じて蓄積してきたノウハウや企業・業界団体等との繋がりを活用し、若年技能者の人材育成、技能尊重気運の醸成を図る。

2 事業の内容

1 地域における技能振興事業

本県の産業、特に観光産業とは切り離せない日本料理、伝統技術を現代に伝える建設等の支援や技能五輪メダリストの技を広く県民にみてもらうイベントの開催、いしかわ技の祭典の開催、また、小中学生等を対象に技能士、熟練技能者等によるものづくり体験教室を開催する。

(1) 技能五輪全国大会予選の実施等

① 技能五輪全国大会の予選の実施

日本料理の予選を実施する。

② 技能五輪全国大会等への参加支援の実施

技能五輪全国大会等に参加が見込まれる職種の参加選手及び指導員の旅費、工具等の運搬費を支援して、中小企業等の参加を促進する。

(2) ものづくりの魅力、技能者の持つ技能を伝えるための取組

ア イベントの実施

① 熟練技能者等によるものづくり体験、製作実演等の実施

学校の授業以外のイベント会場等において、小中学生にもものづくりの楽しさや魅力を啓発するために、業界団体等と連携し、熟練技能者等によるものづくり体験、製作実演等を実施する。

また、ITマスターに準じた情報技術関連の熟練技能者による情報技術関連分野の体験教室等を実施する。

② いしかわ技の祭典の開催

技能の重要性・必要性への理解促進と技能伝承の促進を図るため、「石川の技能まつり」において、“建設・ものづくり職種の技の祭典（大工、左官、鉄筋、瓦、旋盤、溶接等16職種）”を開催し、一般来場者による人気投票を実施するとともに、平成30年度も「超一流の技術水準」を知ってもらうために、技能五輪全国大会メダリスト等の実演等を開催し、技能向上意欲の喚起や若年技能者のものづくりに対する興味関心を高める。

また、熟練技能者等によるものづくり体験教室と職業の説明・内容説明等を組み合わせたイベントや、地域住民等を対象とした講演等及び製作実演に合わせて、情報技術関連分野の体験教室等を実施する。

その他、技能まつりを盛りあげるとともに、来場者にもものづくり職種の関心を高めてもらうために、ステージイベント等を開催する。

③ 技能五輪の超一流技能の紹介

日本海側最大規模の機械工作見本市である「MEX金沢2018」において地域住民、工業高校等の生徒など入場者5万5千人（平成29年度実績）を対象に技能五輪全国大会出場者の作品展示や製作実演による超一流の技を紹介し、技能レベルの高さ、奥の深さを実感してもらうと同時に、今後の技能検定受検や技能五輪大会への参加意欲を高めてもらう。実演者は技能五輪全国大会フライス盤職種入賞者を予定。

イ ものづくりマイスター等以外の熟練技能者の派遣

ものづくりマイスター等対象職種以外のフラワー装飾職種等の高校生や若年技能者の技能向上を図るため、熟練技能者を派遣する。

ウ 技能競技大会展、技能士展等の実施

センター、幹事県、各コーナーと協力して取り組む。

エ 技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会

技能伝承及びIT活用の好事例を企業に普及させるための、発表・意見交換等を実施する。

オ 「地域発！いいもの」応援の実施

本県で行われている「技能振興」、「技能者育成（人材育成）」等に資する特色ある取組や制度を「地域発！いいもの」として選定し、広く周知し、取組みを応援するために、当該制度の周知、募集応募書類の受付・確認、センターへの申請書の送付等の業務を行う。

カ グッドスキルマーク事業の実施

熟練の技能を活かした付加価値の高い製品をアピールし普及を図るため、協会ホームページに募集案内を掲載するとともに、技能士会会報等で事業内容等を説明し周知を促す。

2 ものづくりマイスター及びITマスターの認定、登録

実技指導の派遣や「目指せマイスター」プロジェクトを積極的に実施するために、ニーズの把握と、ものづくりマイスター等候補者に係る情報収集等（掘り起こし）を行い、ものづくりマイスター等を確保する。

(1) ものづくりマイスター等の開拓

現在、ものづくりマイスター301名、ITマスター6名登録されているが、新たな開拓として、今後ニーズが見込まれ、認定者がいない若しくは少ない職種の、掘り起こしを行う。

(2) ものづくりマイスター等に対する研修

指導技法等講習会をものづくりマイスター等の認定・登録後速やかに開催するとともに、受講者の利便を図るため複数回の開催を予定している。

3 ものづくりマイスター等の活用

技能競技大会の競技課題等を活用して、若年技能者の人材育成に係る相談・援助及びものづくりマイスター等の派遣による実技指導を実施する。

また、地域の教育機関関係者からの要請に基づいて、学校の授業等にもものづくりマイスター等を派遣し、「ものづくりの魅力」・「ITの魅力」を発信する。

(1) 若年技能者の人材育成に係る相談・援助

学校、企業等のニーズを把握するために、技能検定部門等と連携を密にして、ニーズの把握に努め、幅広く対応する。

(2) ものづくりマイスターの派遣による指導の実施

① 工業高校等学校への派遣指導

高等学校等学校に対しては指導ニーズの高い機械関係、電気関係のほか、造園、建築大工、型枠施工、鉄筋施工等の建設関係の増加を図る。

また、普通科高校等において製造・建設業に就職が内定した学生生徒に対しても指導を行う。

なお、高校生等に対しては技能向上とともに、技能検定受験者の増加と合格率アップを目標とする。

② 企業・業界団体への派遣指導

企業等業界の指導については、①技能検定受験の経験が無い企業、②技能検定の合格率アップを目指す企業、③鉄工・機械系、電気系、建設系の団体及びグループ等へ個別訪問等によりPR活動を行い指導先の増加を図る。

③ ものづくりマイスター活動率の向上

現在301名登録されているマイスターの活動率は52%で、前年比5%増となっている。毎年増加傾向にあるが、平成30年度もより多くのマイスターが活動できるようキメ細かなコーディネートに努め、活動率向上を図る。

(3) 「目指せマイスター」プロジェクト

① 「ものづくりの魅力」の発信

児童、生徒、教師、保護者等に対して「ものづくりの魅力」を発信するために、建具製作、建築大工、建築板金、表具、和裁、貼函、和菓子等のマイスターを学校等に派遣し、講義・ものづくり体験等を実施する。

また、普通科高校等の生徒を対象に、生徒が自らの適正と職業の関わりについて考え、ものづくりへの理解を深めるために、ものづくりマイスターの講義を実施する。

その他に、教育機関関係者からの要請に応じて、ものづくりマイスターによる講義を伴う児童・生徒を対象とした事業所・訓練施設等見学を実施する。

② 「ITの魅力」発信

事業を効率よく推進するために、「ものづくりの魅力発信」の経験と実績を基に、県学校指導課をはじめ、市町教育委員会及び小中学校等に理解と協力を求めて実施する。

③ 若者に対する「ものづくりの魅力」の発信

地域若者サポートステーションから協力要請があった場合に、実施を検討の上、サポステ事業の支援対象者を対象として、ものづくりマイスターを派遣し、ものづくり体験等を行う。

④ ものづくりマイスターの働く職場での職場体験実習

中小零細企業等のものづくりマイスターに対して、ものづくり体験を含む「職場体験実習」の実施を依頼し、これに応じるものづくりマイスターを支援する。

4 地方公共団体、経済団体等との連携会議の設置・運営

本事業の計画立案等推進計画がスムーズに進むように、関係機関と綿密な連携をとる。

下記メンバーにより、本県の産業特性、就業構造等を踏まえた本事業の推進計画の決定、年度末の総括及び次年度案の策定を行う。

年2回開催し、1回目は、年度当初に事業内容を盛り込んだ推進計画を策定し決定する。2回目は、本年度の実施状況を踏まえた翌年度の事業の推進計画案の策定を行う。

(メンバー)

労働局、高齢・障害・求職者雇用支援機構、県労働企画課、県学校指導課、県産業技術専門校(4)、工業高校部会、県中小企業団体中央会、県経営者協会、県鉄工機電協会、県職業能力開発協会